

北っ子 敷島北小学校だより

令和5年5月30日 文責 学校長 増坪広夫

そこに行かなければ見えないものがある

5月31日（水）から2泊3日の日程で修学旅行に出かけてきます。6年生が決めたテーマは「楽しくまじめな修学旅行を通して、友だちとの仲を深めよう」です。今年度の修学旅行ですが、大幅に規制が緩和されたことから従来の鎌倉・東京方面を見学地としました。ただし6年生自身と保護者の皆様方が少しでも安心できるように基本的な感染症対策をしっかりと守って実施いたします。旅行中はもちろんですが、旅行前・旅行後にもご配慮いただくことも多いとは思いますが、ご協力をお願いします。

さて、これまでのコロナ禍で注目されたことの一つに「バーチャル体験」があげられます。その場に行かなくても、まるでそこに行ったような体験することができるようになりました。少し気取った言い方をすると「スマート社会」とか「ソサエティー5.0」と呼ばれているものです。こうした「便利さの追求」は、これからも求められていくことと思います。



その一方で、実物を見たり触れたりする体験は何事にもかえがたいものだと思っています。水中から高く飛び跳ねるイルカが実に大きいこと、鶴岡八幡宮に続く段葛が見事な遠近法によって構築されていること、間近で見る大仏や建造物が先人の知恵の宝庫であることなど、実際に体験をして学んだことや経験は深く記憶に残ります。「最高の思い出」には、友だちと過ごした楽しさだけでなく、こうしたことも含まれるのではないのでしょうか。

集団でお互いを高め合う機会に

さて、修学旅行の目的やその教育的効果は数多くありますが、一言でいうならば「集団がお互いを高め合える絶好の機会」であると思っています。思い出づくりはもちろんありますが、その準備や事前学習に費やした時間も含めてバーチャルや机上では学び得ない価値があるのだと思います。



だからこそ、「修学旅行が楽しさを提供してくれる」のではなく、「楽しい修学旅行にするために自分は何ができるのか」といったことが考えられる6年生であってほしいと思っています。

修学旅行結団式



5月29日に修学旅行の結団式を行いました。引率の職員の紹介があり、団長（校長）の話では、「五感をフルに使って見学場所の雰囲気を感じてください」といった話をしました。

また、誓いの言葉では「生活ルールを守る」「友だちとの絆を深める」ことを児童代表が宣誓しました。この誓いを忘れずに有意義な時間を過ごせればと思っています。

5年自然教室

5月18日から19日までの2日間、5年生が林間学校でハケ岳少年自然の家に行ってきました。2日目が雨だったため若干の日程に変更がありましたが、野外活動や宿泊体験を通して自分で考えて行動する等、たくさんのことを学ぶことができました。冒険ハイクでのケーブルサーキットやヤッホーの丘でやまびこ体験など、充実した野外活動を全員が満喫しました。



「男子三日会わざれば刮目（かつもく）して見よ」とよくいわれますが、男女ともたくましく成長して帰ってきたように思いました。学年としての結束も強まり、敷島北小学校のリーダーとして今後の活躍が期待されます。

教育とは時間のかかること

年度末に家にある本を整理していたら、懐かしい教育書を見つけました。久しぶりに開いてみると、こんなことが書かれていました。その一節を抜粋したものを紹介します。

3年生を担当している。初めての子供たちだ。先日第1回の学級会があった。

「雨の日に持ってきてもいい遊び道具」が議題だった。トランプ・将棋・ゲーム・マンガなど、いろいろな意見が出た。私は教室の隅にある席でそれを聞いていた。採点をしながらである。

教育とは時間のかかるものだ。子供たちの混乱、戸惑いをじっと待つ時間も必要となる。

3年生の子供たちが「雨の日に持ってきてもいいもの」の候補を並べるだけで1時間近くが過ぎ去った。時間が足りない。誰かが言った。「先生に決めてもらおう」2人を除き大部分が賛成した。

反対した2人の子は、いつも少数派の子だった。私は何度も念を押した。「本当に先生が決めてもいいのですね」「後悔しませんね」子供たちは「それでいい」とのことだった。

私はゆっくりと言った。「全部ダメです」「これが先生の意見です」「後悔しないと言ったのですから後悔しないでください」教室はシーンとなった。

次の週、再びこれが議題に取り上げられた。「先生が決めましょうか」と聞くと「ダメです」「自分たちで決めます」との大合唱であった。このように一つ一つ自立させていくのも教育なのである。



本に書いてある『教育とは時間のかかるものだ』の言葉が響きます。

大人がしてしまえば簡単に済むことを、私たち教師はあえて子供の手に乗せることがあります。

時間がかかろうが、手がかかろうが、自らの手によって成し得たことの方が大きな実りがあることを知っているからです。